



進学先

横浜国立大学 経営学部

宮地 杏さん

向陽高校 環境科学科
陸上部

進学先

名古屋大学 医学部保健学科

大久保 碧乃さん

向陽高校 環境科学科
陸上部

志望校や、推薦を考えたのはいつ頃ですか？

宮地: 高2の12月です。それまではアカデミーの面談でもずっと「国際系行きたい」って言ってたじゃないですか。でも、改めて将来を考えると、国際系に行って何がしたいのかなって。違うなあと思って、いろいろ職業を調べた結果、マーケターがいいなって。マーケターも、国際的。世界広がっていけるからグローバルなマーケティングに関わりたくなって考えました。それで、国立の経営学部の入試方法とか色々調べて、横国の経営の学校推薦型を見つけて決めました。

大久保: 私は、推薦を出せたら出したいくらいでずっと思っていて。それで評定は取れるように頑張っていました。最初は別の大学で考えていたけど、その入試方法がたぶん厳しいなって思って。それで学校の先生に相談した時に、提案してもらった名古屋大で最終決めました。けっこうギリギリに。高2の1年間は本当にどうしようって。理系っていうのはあったけど。ずっと悩んで悩んで、検査技術科学に決めたのは高3になってから。検査技術っていう分野は知ってはいったけど、理学療法を諦めきれなくて。でも仕事内容とか、そういうのを調べて。理学療法も捨てきれいでなかったけど、自分的にもやりたいし興味あるなって思えたのが、検査だったので。最終、評定は4.3か4.4くらい。杏(宮地さん)の評定は化け物だったよね(笑)

宮地: 5.0、語り継いでもらっていいですよ(笑)。入学した時から、親に「これからは推薦と

かが増えてくるから、活用できるように成績は取っておいた方がいい」って教えてもらっていて。それで定期テストは点数取るようにしていました。

大久保: 私も、だいたいの最低ラインは4.3以上だから、その辺は取っておこうって。あとは小論文や面接で、なんとかかなるかなーぐらいの気持ちでした。



高1・高2の勉強法、陸上部との両立やモチベーションは？

大久保: 高1・高2は、ずっと部活。なんかもうずっと全力で。部活して家帰ってからは勉強は何もしてないです。練習後、力尽きるから。テスト前に「4STEP(数研出版)終わらないかも」ってめっちゃ焦ったりしてた。でも、電車に乗っている時間とかはうまく使ってたかな。朝の電車とか夕方の電車で英単語とかをして最低限の勉強時間は取るようにしていました。

宮地: 私は、テスト期間は絶対アカデミーの自習室に通ってました。それ以外来たこと無かったですけど。なんていうか、定期テストは意地で、「やってやるぞ！」みたいな気持ち(笑)

大久保: 私は、周りの環境と自分の負けず嫌いな性格が良かったなって思う。陸上部は賢い人が多かったし。杏(宮地さん)もすぐ点数公開してくるから(笑)

宮地: (笑)

大久保: 自分はけっこう負けず嫌いだから、そこになんとか食らいつこうと思って。自分だけ変な点数を取れないなと思って頑張った。それが良かったかなって。

宮地: 定期テストだけは取れてたから、アカデミーの先生にもすぐに報告してた(笑)。模試は無理だったけど。模試は高3になってから取れるようになったくらい。定期テストの勉強では、4STEPは3周してました。

大久保: 3周!? 解くのめっちゃ速いよね。

宮地: 2、3週間ぐらい前からテスト範囲をだいたいやって、テスト発表されたらもう1回やって前日に爆速でもう1周するんです。それで数学は失敗したことはないです。

大久保: 怖い(笑)。あと、陸上の大会に行っても、勉強もみんなやってたよね。応援をしなくていい時間とかを見つけて。

宮地: そうそう。ブルーシート上で、みんなで4STEP開いて(笑)。だから大会の時もみんな普通に荷物の中に4STEPとか入ってたよね。

学校で行ったイギリスへの短期留学について教えてください。

宮地: めちゃくちゃ受験勉強に対するモチベーションが上がりました。高1の終わりでも行くことは選べたけど、高2から高3になるタイミングで行って良かったなと思いました。絶対にまた来ようって思った時に、頑張らないと来れないなって。バスの中で友だちと「受験頑張ろう」って。

大久保: 私もっと英語やらないと思って思った。それまで英語は得意だと思ってたけど、がっつり海外に触れることなかったの、いざ会話で使おうと思ったらあまり伝えられなくて。英語をもっと勉強してからまた来たいなって。でも本当に楽しかった。1週間ずっと。1割くらいは受験に使えるかなって気持ちもあったけど、やっぱり英語が好きだから楽しかったです。

宮地: あっちの学校でもいろんな友達ができる。普段出会えない人と出会えて。だから後輩のみんなにもぜひ行ってほしいと思います。



Academy Campusのことについて教えてください。

宮地: 高1のハイレベル数学(ACクラスライブ授業)がめっちゃ良かった。その時にまとめたノートは高3になっても使いました。

大久保: 基本的にアカデミーで学校の授業の先取りができるのが良かった。数IIIとかも先にやってるから、学校の授業でやった時に「あ、こういうのあったな」って思うし。高3になってから分からないところがあったら焦るけど、アカデミーの授業のおかげで、そういう焦りがあまりなかったのが良かったと思う。「知ってる」っていうのが大きい。一回やったことある内容だから、わりと落ち着いてできたのかなって思う。

宮地: 私は、文系だからアカデミーで数IIIが始まった高2の秋からは自分で4STEPをやってきました。自分でやるってなっても、やっぱりそれまでの積み重ねがあったから、あまりつまづくことはなかった。

大久保: あと、英語(ACクラスライブ授業)はもうヨッシー(吉田先生)信者です(笑)

宮地: 英語も良かったよね。高3になって受験前になってきたら英語の勉強を自分でできるようになったけど、それまではやり方が分からなくて。英語ってどうやったらいいんやろう、どん

な勉強をすればいいんだろうって。自分では単語しかやってなかったから。アカデミーに来て授業を受けたら、最低限の勉強時間も確保できるし、基本的なところは全部押さえていけたかなって思います。

大久保: ハイレベル英語(ACクラスライブ授業)はけっこう難しかったけど、その分、学校の授業がちょっと楽になった気がする。たぶん学校で初めて習う人がいる中で、知ってるっていうのは心の余裕。

宮地: あと、ハイレベル英語の中でたまにやってくれた、数学や化学・歴史とか日本文学とかいろんなジャンルの問題が英語になっているものをグループであーだこーだいいながら解く時間(ハイレベル杯)がすごく楽しかった。周りの子の意見を聞いて「なるほど！」みたいな。

あと、長沼先生の国語(ACクラスライブ授業)もめっちゃ良かったです。

大久保: マジで良かったよね。あの授業で60点70点ぐらい上がってる気がする。国語ってどう勉強していいか全然分からないし、学校でもあんまり共テ対策用の授業ってない。でも、「こう解けばいいよ」とか「こうやって覚えればいいよ」とかを全部教えてくれる。高2のうちにそれを勉強して、高3で実践的に使って。教えてもらった解き方がすごく良かった。先生の言う通りにやれば、できる。なんで逆に今まで分からなかったんだろうってなるくらいに。

宮地: サテラインでは、高2の8月か9月頃から蔭山先生の政治経済(代ゼミサテライン講座)。高2の時はちょっとなめていて、「まあ見ていけばいいか」くらいの気持ちであんまり真面目にやってなかったんですけど、高3になってからも蔭山先生の授業を受けて「あ、こんなに良かったんや！」って。ちゃんと真面目にやったら良さに気づきました(笑)

大久保: 「マジお勧め。マジ受けた方がいい」って、めっちゃ言ってきてたよね(笑)。

私は亀田先生の化学(代ゼミサテライン講座)がおすすめかな。アカデミーで、本格的な受験勉強のためにそろそろサテラインをって言ってもらったタイミングから受けたと思う。でもなかなか手をつけてなくて高3になる頃に、そろそろヤバイよって岡先生に言われて、そこから猛スピードで。受けたら本当に良かった。もともと化学がすごく苦手で。覚えるのとかが本当に苦手だったけど、カラフルだしイラストもあるし、学校では教えてもらえない語呂みたいなのもいっぱい

あったから。問題解く時に「あ、これ！」って感じですよ。役に立った。亀田先生の化学は、周り子たちも受けてるから、分からなくなった時に「これはどういうこと？」って相談もできるし、すごい良かった。

宮地: 文系では、ほとんどの子が蔭山先生の授業を受けてた。休憩中みんな蔭山先生の参考書(笑)。授業はすごい面白かった。あと、板書もめっちゃ綺麗。まとめていたら分かるし、それをちゃんと置いておいたら学校の授業や参考書で「あれ？」ってなった時も、そのノートを見たら一発で分かる。けっこう参考書に載ってないこととかも教えてくれたから役に立った。

あとは、岡先生との面談。今やらないといけないこととかも分かるし、進路に迷っていたとしても先生の話聞いて考えて決めることができたから。あの面談めっちゃ良かった。

それと、自習室は、使いやすいようにリニューアルされてからめっちゃ好きになりました。高1の時はテスト期間以外行かなかったんですけど、でも高3になって自習室に通いだしてから、なんか、家で勉強してた自分がバカらしくなりました。めっちゃ集中できる。世界に入りこめる。

大久保: 分かる、マジで。パーティションで区切られているのが良かった。自分のお気に入りの場所に座りたいがために、休みの日は朝一で来てた(笑)。

宮地: テスト期間は高1・高2生も来るから、場所取りでけっこう殺気立つよね(笑)。「早く行かないと取られる」って。でもテスト期間以外も普段から来ている高1・高2生の子もいてすごいなって思った。

大久保: 土日とかもいつも来ている高2の子が私より教科書や参考書持ってきて、楽しそうに問題解いているから「すごっ！」って思った。

宮地: 図書館とか、他にも自習できる場所はあるんだろうけど、なんか集中できなくて。アカデミーの自習室みたいに自分の世界入れないんですよ。なんかいろんな音が気になる。

大久保: 塾のほうみんながみんな同じ目的で勉強してるから、なんかやりやすかったよね。自分もやらないとって。

宮地: ちょっと席を立った時に他の子が勉強しているのが見えて、それでやらなきゃって思ってた。





受験勉強を振り返って。

宮地: 陸上部では長距離だったので、毎日走って毎日限界で。引退したらこれ以上しんどいものはないって思っていたけど、受験勉強は比べものにならなかったです。メンタルがえぐかった。

大久保: 私も。思った以上に成績伸びないし、何回もD判定・E判定を見るし。第一志望はブレ(11月に実施される最終の共通テスト模試)まで、たぶん一回もC以上がなかった。一番成績が伸びたのが、12月。学校でやる共テのパックで急に150点ぐらい上がって。そこからだったから共テ終わってからの自己採点まで第一志望のA判定とか見たことない。それはけっこうきつかった。本当に行けるのかな、みたいに思って。で、仲のいい子がどんどん決まってくから、きついなーって。でも、志望校を下げるのは悔しいから。悔しいし、あんまりメジャーな専攻じゃない分、下げたら一気に下がるのが嫌で。だから、もうちょっと頑張ってみようかなって。



宮地: 私は共通テスト無しの推薦で、小論文と面接と書類審査。自分の中で、推薦で活かせるポ

イントがけっこうあるなと思って。部活でもちゃんと成績を残したし、英検準1級も取ったし、イギリス行ったり台湾行ったりいろんなことに参加したから。でも高3の夏休みとかに推薦の対策にめちゃくちゃ時間使ったんですよ、小論文の勉強と面接対策や志望理由。もう何時間かけたか分からないくらい。だから一般入試の勉強がちょっと疎かになってしまったというか時間が足りなくなって。すごい焦りがあったんです。直前とかメンタル崩壊して。推薦で良かったって思えるのは、結果論じゃないですか。受かったから今良かったと思えるけど、受かってなかったら地獄。自信があるけどない、ってずっとそんな感じで。後輩たちに伝えるとしたら、共テ無し推薦はあまりお勧めできないかな。リスクがだいぶ高いから。高2の時は、受験は軽く終わると思ってたけどそんな甘くない。やばかった。特に面接に行ってから結果発表までの時間がやばくて。その人の心の持ちようによっては、そこも集中できるんだろうけど、気になるし。覚悟はしてるけど、なんかずっと勉強しているようでしてない感じでふわふわしてました。

大久保: 私は共テを使う推薦はお勧め。自分は推薦で決まったけど、たぶん一般入試ならけっこう厳しかった。挑戦できるチャンスが一回増えるし、自分が今までやってきたこととか、大学に進学したい理由とかどういうことしたいとか、どういう考えを持ってるかとか、そういうのをまとめて評価してもらえってというのは大きいから。今思えば、挑戦するだけの価値はあったと思う。共通テストを受けるんだったら、どこかの推薦をチャレンジしてもいいと思う。あと、志望理由書とか面接とかがあったら、その準備をする中で、これを絶対やりたいみたいな気持ちが出てくる。志望理由書を書いたら行きたくなくなる。ずっと夢がぼんやりしてたけど、志望理由書とかを書いていくうちに、あ、自分はこうなりたい、これは本当にやりたいなって出てくる。その分、共テは頑張らないといけないけど。



後輩へのメッセージをお願いします。

宮地: 英検は頑張ったほうがいいと思います。2級は取る人多いと思うけど、準1級。私も一回面接で落ちたけど、S-CBTで受け直しました。英検準1級取っていたら、英語が満点扱いの大学もあるし。準1級を持ってたら、かなり役に立つと思うので、時間があるうちに取っておいた方がいいと思います。

大久保: 受験勉強は、たぶん思ってる以上に成績は伸びないし、しんどいことのほうが多いけど、最後まで第一志望に食らいついてほしい。私は結局、最後の最後に成績が上がってきたので最後まで変えなくて良かったなって思ったので。最後まで諦めないでほしいです。

インタビューを終えて

宮地さんは共通テストを課さない学校推薦型選抜で、大久保さんは共通テストを課す学校推薦型選抜で、それぞれ合格をつかみ取りました。

二人とも、ハードな陸上部で毎日練習を続けながら、やるべき時にしっかり勉強に向き合い、定期考査で結果を出し続けてきたことが、推薦での合格につながる大きな要因となりました。インタビューにもあるように、志望理由書を書く過程で自分を見つめ直し、大学で何を学び、どんなビジョンを描きたいのかを言葉にしていく中で、二人のモチベーションはより確かなものになっていきました。

学校推薦型選抜に取り組んだ経験は、これから始まる大学生活をより豊かなものにしてくれるはずですよ。



芯が強く負けず嫌いな二人は、お互いを刺激し合い、高め合い、支え合う存在でもあったと思います。明るく前向きな姿勢は周囲にも良い影響を与え、大学でもきっと素敵な仲間に出会うことでしょう。

高校生活・受験生活の中で培った「目の前のことに全力で取り組む姿勢」を、これからの人生でも大切にしてほしいと思います。

受験勉強、本当にお疲れさまでした。二人のこれからの活躍を心から楽しみにしています！

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 岡 哲司